

広聴・広報活動と情報公開

「一人一人が広報パーソン」という自覚の下、職員が一丸となって社会や立地地域の信頼確保に向けて取り組んでいます。

<http://www.jaea.go.jp/index.html>

広聴・広報活動

社会のニーズを的確に把握し、タイムリー、かつ、わかりやすく情報提供することを基本に、本年度は情報発信力強化のため「ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）ガイドライン」を制定し、より多くの部門で「Twitter」等を積極的に活用できるようにしました。



Project JAEA（英語版）

また、国際的な情報発信を強化するため、ホームページ（英語版）のデザインをリニューアルするとともに、英語による「Twitter」を開始しました。さらに、写真や画像中心の電子版広報誌「graph JAEA」の英語版を発行し、研究者、技術者が自らの研究内容を分かりやすく説明する動画チャンネル「Project JAEA」の英語版を公開しました。



graph JAEA（英語版）

社会や立地地域との共生を目指した直接対話活動を160回開催するとともに、原子力機構の事業内容を広く知ってもらえるよう施設公開を313回開催し約7,700名に研究施設を見学していただくなど、社会や立地地域の皆さんと向き合った取組を継続し、原子力機構との間の信頼関係の構築に努めました。

一方、若年層に科学の面白さを体験してもらいながら科学技術への理解増進を目的として、立地地域の自治体や教育機関などと連携し、小中学生や高校生を対象とした出張授業や実験教室の開催の他、スーパーサイエンス



ペットボトルで簡易電池を作っている様子

ハイスクール（SSH）指定校へ研究者を派遣して講義を行いました。さらに首都圏で開催される科学イベント「青少年のための科学の祭典」では、「ペットボトルで簡易電池を作り燃料電池を学ぼう!!」を実施しました。また、将来の我が国の科学技術を担う理工系の大学生及び大学院生を対象に、原子力機構で行っている研究開発の現状や成果を紹介する大学等への公開特別講座を開設し、希望する大学や高等専門学校等に研究者・技術者が出向き、講義を通じて科学技術への興味を喚起する取組も積極的に行いました。

情報公開・情報提供

原子力機構ウェブサイトを通じて、組織、業務や財務等に関する情報を提供しています。また各拠点に設置しているインフォメーションコーナーでは、原子力機構の業務や研究内容を紹介・説明したパンフレットや各種資料を用意し、どなたでも閲覧できるようにしています。

また、外部有識者からなる「情報公開委員会」を設置し、頂いた御意見を参考に、情報公開制度の適正な運用と透明性の確保に努めるとともに、情報公開請求に遅滞なく、適切に対応していくこととしております。

原子力機構の活動で得られた幅広い原子力分野での研究成果について、発表や取材対応により、メディアを通じて広く国民の皆様、社会にお知らせするよう努めています。また、原子力機構の近況、トピックス及び主要施設の運転状況について「原子力機構週報」として毎週取りまとめ発行するとともに、事故・故障等が発生した場合には、迅速かつ正確な情報発信に努めています。

エコプロダクツ 2014 で環境に優しい研究開発成果を紹介

2014年12月11日～13日、「持続可能な社会の実現」に向けて最先端の技術と知恵を結集した日本最大級の環境展示会「エコプロダクツ2014」が東京ビックサイト（東京都江東区）で開催されました。5回目の出展となる原子力機構のブースでは、エマルションフロー法を利用し廃材内のレアアースを低コスト・高効率に高純度で回収する技術（2014年10月30日プレス発表）、高温ガス炉を中心とする水素社会の実現を目指した取組、さらには特許「高吸水性ハイドロゲル」を活用し、誰にでも簡単に和紙製品が制作できる吹き付け和紙デモ装置（和紙職人）などを、実演とパネル等の展示をしながら紹介しました。原子力機構ブースには500名を超える来訪者があり、これらの成果が放射線利用など原子力の研究開発から生み出されたものであることに驚きと強い関心を示していました。今後も研究開発成果が身近に感じていただけるよう情報発信に努めていきます。



吹き付けて作った和紙の説明をしている様子

「変革の時～新たなる出発に向けて～」をテーマに第9回原子力機構報告会を開催

<http://www.jaea.go.jp/jaea-houkoku9/>

1年間の研究開発成果の総括として、2014年11月27日にニッショーホール（東京都港区）にて報告会を開催しました。

松浦理事長（当時）の「開会にあたって」と題した報告に続き、「原子力機構改革を踏まえた将来展望」として、改革後の将来展望の考え方、具体的な取組を紹介しました。また、もんじゅ改革の現状と今後の取組として、改革を確実に成し遂げ国民からの負託に応え、高速炉の実用化に繋げていくという報告を行いました。さらに最近のトピックスとして、「高レベル放射性廃棄物の減容化・有害度低減への挑戦」と「廃止措置と環境回復に向けての取組」といった放射性廃棄物処分に関する研究の報告も行いました。これらの報告会の様子はライブ中継で原子力機構ウェブサイトにて公開するとともに、動画も含めた全ての報告資料は原子力機構ウェブサイトで公開しました。



松浦理事長が報告している様子